

ツマクロテンヒメハマキ

トドマツ，エゾマツなど針葉樹の若い枝や若い実の内部に潜るイモムシ（幼虫）。最大長約12mm。頭は茶色，その後の背面は濃い茶色～黒色。

まれに食害が目立つことがある。



1. トドマツ新梢内の幼虫。美唄市，1983/8/28。 2. アカエゾマツ新梢内の蛹。美唄市，1983/8/28。

【学名】 *Petrova monopunctata*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera)，ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道，本州

【特徴】

マツ科樹木に寄生するシンクイムシ類（幼虫）の区別点

種和名	最大約	特徴
ツマクロテンヒメハマキ	12mm	体はやや太く，黄白色で灰色や赤色味を帯びる。
マツツマアカシンムシ	9mm	体が太く，頭が小さくみえる。赤茶色。マツ属だけに寄生。
マツアカシンムシ	15mm	体が太く，頭が小さくみえる。赤茶色。マツ属だけに寄生。道南に分布。
マツトビマダラシンムシ	14mm	体はやや太く，赤茶色で下側が淡い。
マツズアカシンムシ	12mm	体はやや太く，淡い黄土色，背中が赤みがる。マツ属だけに寄生。道南に分布。
マツシンマダラメイガ	25mm	体は細長く，灰色，細い縦縞が多数ある。

マツズアカシムシとよく似ている。頭部とそのすぐ後（前胸背楯）はマツズアカシムシでは同色だが、ツマクロテンヒメハマキでは前胸背楯が頭部より暗い。

【生態】

モミ属（トドマツなど）やトウヒ属（アカエゾマツなど）の当年生枝や球果、カラマツやストロームマツの球果などに寄生する。

年1世代。蛹越冬。成虫は5～6月に出現する。幼虫は7～8月に発生。当年生の幹や枝の内部や若い球果の内部を食べる。8月に摂食場所で白い繭を作って蛹になる。

【被害と防除】

アカエゾマツの当年生幹の食害がまれに目立つことがある。被害実態は調査例がない。樹形異常の原因になるとする報告もあるが、食害が樹形に与える影響は調査されていない。球果の被害はあまり問題にされたことはない。

森林では防除が必要とされたことはない。

庭木などで食害が目立つときは枯れた枝の中に蛹がいるので、枯れ枝を取り除く。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ツマクロテンヒメハマキ himehama/tumakuro/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/11/3-12/23.
yochu.JPG, sanagi.JPG

「写真1～2」鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1983.